

第 26 回 小山市地域公共交通会議 議事要旨

■開催の概要

1. 日 時：2016. 05. 19（木） 15:00～16:00
2. 会 場：城山・サクラ・コモンビル2階 まちなか交流センター「おやま〜る」内
小山市市民活動センター 研修室2
出席者：大久保 会長
永井 副会長、野口 副会長
[委 員]：高橋、田中、佐山、吉光寺、川又、大森、海老沼、中島、生沼、大山、
島田、鉢村、栗田、西原
[委員代理]：権田（相田委員）、福島（大橋委員）、森戸（古橋委員）、伊勢（嶋田委員）
(以上 計 21 名)
3. 議 題：(1) 平成 27 年度運行状況について
(2) 小山市生活交通確保維持改善計画について
(3) 市民病院線の路線再編について（市民病院線の増便及びダイヤ一部変更について）
(4) その他
①小山駅東口循環線、小山駅東口・新市民病院循環線の定期運賃の統一について
4. 報告事項：(1) 小学生向け公共交通活用副読本について
(2) おーバスまつりについて

■開会及び委嘱状交付

大久保会長より当会議が開会され、委嘱状の交付により、関係団体等の総会並びに定期異動に伴う委員の変更が伝えられた。新委員は以下の通り。

- ・吉光寺 邦夫（きっこうじ くにお）[市自治会連合会美田支部]
- ・栗田 英樹（くりた ひでき）[栃木運輸支局]
- ・西原 弘之（にしはら ひろゆき）[宇都宮国道事務所]
- ・相田 武志（あいだ たけし）[小山警察署]

【欠席者】

- ・小平 康子（こだいら やすこ）[市老人クラブ連合会]
- ・永田 健一郎（ながた けんいちろう）[市 PTA 連合会]

■会長挨拶

本市では、路線バスをはじめとする地域公共交通を、生活の足として多くの方に利用していただき、平成 27 年の利用者数は約 60 万人でした。これもひとえに皆様ご協力のお陰であり、感謝と御礼を申し上げます。本会議では、国の補助事業として、生活交通確保維持改善計画を策定し、調査や検討を継続して行っておりますので、補助事業に係る計画策定のほか、市民病院線の路線再編についても、皆様にご協議いただくものです。本市では、継続可能な公共交通を目指し、国の補助事業を活用し、市民の利便性向上に連なるようさらに検討してまいりますので、皆様には引き続き、ご理解ご協力を宜しくお願い致します。

※議事に移行するにあたり、事務局より、当会議設置要綱第 6 条「交通会議の会議は会長が招集し、その議長となる。」の規約により、大久保会長に議長が委嘱された。

■議事要旨

●議 題

(1) 平成 27 年度運行状況について

資料 1 に基づき、平成 27 年度運行状況について、以下のとおり事務局より説明があり、質疑応答ののち了承された。

○路線バス・デマンドバス・駅東循環バスの利用者数合計は、H26 年度は 570,987 人であり、H27 年度は、601,511 人であった。前年比 30,524 人増、5.3%増である。

また、運行経費 [+2.8%]、運行収入 [+6.8%]、運行補助 [+0.3%] となっており、順調に推移していると言える。

※以下、大きな変化があった部分のみ説明

【路線（コミュニティ）バス】

○「平均運賃」については、「小学生・65 歳以上の利用者（100 円）」が、「中学生以上・65 歳未満の利用者（200 円）」と比較して、多いほど平均運賃が下がるものとなっている。高齢者の乗車が多い路線ほど平均運賃が下がっている傾向となっている。

○「利用 1 回当たりの補助」については、各路線の（補助金／利用者数）で算出した数値となっている。車両の大きさや、利用者数の違いによって増減するものである。

○市民病院線：新小山市民病院が開院に伴い、路線再編となり、運行経費が 26 年度の約 1,054 万円から約 1,123 万円（+6.6%）に増加した。

運行収入も約 235 万円から約 303 万円（+8.8%）に増加している。

○高岳線：利用者数（年合計）は、26 年度の 89,278 人から 101,518 人（+13.7%）に増加した。

運行収入も約 1,472 万円から約 1,744 万円（+18.5%）増加した。

運行経費は、予備車両の導入により増加しており、約 2,071 万円から約 2,227 万円（+約 7.6%）となっている。

○土塔平成通り線：利用者数（年合計）は、26 年度の 6,828 人から 7,741 人（+13.4%）に増加した。

○間々田東西線：運行経費は 26 年度の約 1,602 万円から約 2,071 万円（+29.3%）に増加した。これは、車両の修繕費用と路線再編によるものである。

○「バス路線合計」は、利用者数 [+5.8%]、運行経費 [+5.4%]、運行収入 [+8.3%]、運行補助 [+2.6%] でいずれも増加となっている。

【デマンドバス】

○「デマンドバス合計」は、利用者数 [+10.4%]、運行経費 [-7.4%]、運行収入 [+6.7%]、運行補助 [-5.9%] となっている。

[主な質疑応答]

(会 長) 小山市の地域公共交通は県、国レベルだとどういった評価になるか。

→ (栗田委員) 経営的には若干苦しいところだと思われる。関係各所で善処すべく取り組んでいたければ良いと思う。

→ (会 長) p 4 にあるように、平成 27 年度の収支率が 43% であるので、まだまだ努力が必要かと思われる。

→ (伊勢委員) 県内の平成 26 年度の収支率を見たところ、平均 21% となっているので、その中では小山市は良い方だと思う。

(会 長) 皆様には、さらに頑張ってください、収支率を向上させてほしい。

(2) 小山市生活交通確保維持改善計画について

資料2に基づき、小山市生活交通確保維持改善計画について、以下のとおり事務局より、変更があった部分のみ説明があり、質疑応答ののち了承された。

- p 2、上位関連計画の、小山市総合計画 [平成 28 年 3 月策定] において、基本方針並びに個別施策・主要事業について新たに定めている。
- p 11、平成 28 年 1 月に新市民病院が開業（移転）、4 月に桑市民交流センターが開所したことに伴い、大幅な路線再編を実施したところであり、今後はその検証に向けて作業を進めていくものである。
- p 13、14 「■利用者数及び収支率の現状と目標値」として指標を定めている。新たにデマンドバスの指標として、「目標運行便数」を追加した。
- p 23、国庫補助金内定申請額の合計は約 1,690 万円であるのに対し、国庫補助上限額（今回申請額）は約 1,002 万円である。

[主な質疑応答]

(伊勢委員) p 13 「■利用者数及び収支率の現状と目標値」について利用者数、収支率の年度が H25、26 となっているが、H27 の実績を入れ、H26、27 とはならないのか。

→ (島田委員) 国の補助制度が 10～9 月であり、H26 は、H25. 10 月～H26. 9 月であり、H27 は、H26. 10 月～H27. 9 月であり、半年ずれている。H26、H27 と表記するのが正しい。

(田中委員) p 23、補助金では賄えない分はどこが負担することになるのか。

→ (事務局) 市が負担することになっている。但し、その額は年々少なくなっている。

→ (会長) 補助金を充てにしていけないと思うので、より乗車率を上げるような努力が必要だと思う。

(3) 市民病院線の路線再編について（市民病院線の増便及びダイヤ一部変更について）

資料3に基づき、市民病院線の路線再編について、以下のとおり事務局より説明があり、質疑応答ののち了承された。

- 新市民病院に少しでも早く行きたいという利用者の要望に対応するため発車時間を 10 分早め、②便小山駅西口 8:00 発～新市民病院 8:25 分着に変更し、①便小山駅西口 7:35 発～小山駅西口 7:55 分着を追加する。
- 運行開始予定は 7 月 1 日である。

(4) その他

① 小山駅東口循環線、小山駅東口・新市民病院循環線の定期運賃の統一について

資料4に基づき、以上の路線の定期運賃の統一について、以下のとおり事務局より説明があり、質疑応答ののち了承された。

- 小山駅東口循環線、小山駅東口新市民病院循環線の定期運賃のうち、身体障がい者制度割引及び精神障がい者制度割引についておーバスの料金（1 カ月：4,200 円、3 カ月：11,970 円）と統一する。
- 運行開始予定は 7 月 1 日である。
- 補足（福島委員）→
 - ・ H 2 2 年度の地域公共交通会議にて路線（コミュニティ）バスの定額運賃の統一を、上記の身体・精神障がい者を除いて行った。
 - ・ 今回はその身体・精神障がい者に対する定額運賃の統一を諮るものである。

●報告事項

(1) 小学生向け公共交通活用副読本について

- 公共交通に関する啓発・教育を行い、親子共に公共交通利用促進を図るものである。
- 対象は小学校2年生であり、生活科の授業で利用する。
- 子どものバス無料乗車券、鉄道関連施設の割引券が添付されているほか、子どもたちが公共交通に興味・関心を持ってもらうような内容となっている。
- バス無料乗車券の有効期間を平成28年6月1日～平成29年3月31日に設定したことから、既に申請・手配済みである。
- 補足（伊勢委員）→
 - ・本の題名は「みんなでのろーのりもの・のりかたガイドブック」であり、2万部発行し、県内の小学校2年生全員に毎年配布しているものである。
 - ・中身は漫画のようになっており、親しみやすいものとなっている。
 - ・子どもが成長した際、問題なくバスに乗れるように、モビリティマネジメントの一環として、子どものバス乗車無料券が付いており、大人1人につき、子ども1人無料となっている。また、これはバス事業者の理解のもと行っている。
 - ・只今印刷中であり、月末には、各小学校に届く予定である。

[主な質疑応答]

- (会長) 路線バスの運賃は「小学生・65歳以上の利用者(100円)」となっているが、100円でバスに乗車する割合はどれくらいか。
- (事務局) 人数の確定はできていなく、料金別の人数は割り出せない状況である。但し、資料1にある平均運賃が100円に近付くほど「小学生・65歳以上の利用者」が多く、200円に近付くほど少ないということが分かる。
- また、実績としては、平成25年に副読本の無料券を利用してバスに乗った人は3名であった。平成26、27年は利用がなかった。
- 無料券を活用してもらうべく、関係各所と協力を進めていきたい。
- (会長) 無料券が利用されるにはどうしたら良いか考え、実行するよう宜しくお願いします。
- (会長) 高校生から、バスの運賃150円くらいにしてほしいとの要望があったが可能性はあるか。
- (福島委員) 今後さらにバス利用者が増え、採算が取れるようになれば、そういった金額設定が可能だと思うが、今のところ高校生の運賃割引の予定はない。

(2) おーバスまつりについて

- 平成28年5月3日(火)、道の駅「思川」特設会場にて、車両展示やクリアファイル、路線図の配布などをするイベントを行った。8,000人程度の入場があった。

(3) 乗継検索システムについて

- 時刻表や乗継、バス停名の検索がPCやスマートフォンできるシステムの導入に向け、作業を進めているところである。

[主な質疑応答]

- (永井副会長) 乗継検索システムを利用して、路線バスからデマンドバスへの乗り換えを行う場合、スムーズに乗り換えすることは可能か。また、将来的にシステムを改善する予定はあるか。
- (事務局) 基本的に、電車～路線バス、路線バス～デマンドバスの乗継検索システム導入を考えている。
- 利用者がデマンドバスの予約を、路線バスの時刻に合わせて行うことで、乗り継ぎ場所でのスムーズな乗り換えが可能である。但し、多少の時刻の前後はあると思う。
- また、検索システム自体が格安になってきており、導入しやすくなっている。
- 加えて、システムが導入されれば、バスの動きに無駄がなくなり、事業者の負担が減り、本数が増えることもあり得ると思う。

(以上)